

長嶺地域コミュニティ協議会だより

「防火座談会」 特集号

発行日 平成26年3月1日 発行責任者 会長 水本直弥 編集・発行 広報部 平石三男

この広報誌は新潟市地域活動の補助金を受けて発行しました ホームページ www11.ocn.ne.jp/~minekomi

去る2月7日(金) 中央区東出張所 1階会議室に於いて安心安全部主催の「防火座談会」が開催されました。

新潟市中央消防署 山田浩栄沼垂出張所長をお迎えし、「平成25年1月～12月の火災実績その原因と対策について」と云う議題で講演をして頂きました。



加藤安心安全部長



水本長嶺コミ協会長

火災の発生は政令都市の中では一番少ないと云う事ですが、これから寒くなるので火の用心には十分注意して頂きたいと思います。

出掛ける時はストーブの火を消し、戸締りをキチットすると云う事が大事だと思います。火災は物が無くなるだけでなく、人命まで無くしてしまいます。又、これから高齢化していきますと火の周りは馴れ合いになり火災が発生する云う事になりますので十分注意して頂きたいと思います。



座談会に出席された30余名の参加者



新潟市中央消防署 沼垂出張所 山田浩栄所長

平成25年の火災発生は年間119件でしたが、平成26年2月20日現在ですでに27件発生し、死者が5人出ていると云うことです。

昨年の火災の原因としては放火が28件 コンロが20件 タバコが15件 ストーブが14件でしたが、今年は特に反射式ストーブからの出火が多くなってきているとのことです。反射式は火が消えるまで時間がかかり、完全に消えないうちに給油する事があるからとの事です。

対策として

1. 給油する時は完全に火が消えている事を確認する
2. 給油タンクのキャップをしっかり閉める
3. 燃えやすい衣類をストーブの近くに置かない

以上のように安全の確認と適正な使用を心掛け、火災を出さないようにしましょう。

2月23日付けの 市報 にいがた に掲載された記事です

火災予防緊急対策を実施 ストーブ原因の火災が多発

1カ月半で25件の火災
2日に1件のペース
2月16日現在の火災件数は25件で、2日に1件のペースで火災が発生し
瞬く間に広がる火災。火の扱いには十分な注意が必要



平成25・26年の火災発生状況

| | 25年 | 26年 (2/16現在) |
|---------------------|---------------|-----------------|
| 火災発生件数 (ストーブが原因) | 119件 (14件) | 25件 (10件) |
| 死者数 | 8人 | 5人 |

ています。死者数はことしに入ってから1カ月半足らずで昨年(年間)で8人の半数を超える5人となっています。
市消防局では火災予防

緊急対策として、市民の皆さんに注意喚起をする街頭活動や消防車両による広報などを行っています。日頃から防火意識を持ち、火災を未然に防ぎましょう。
消防局予防課(☎025・223・9233)
4割はストーブが原因
ことし発生した火災件数の約4割にあたる10件の出火原因はストーブでした。ストーブの使用には十分な注意が必要です。安全の確認と適正な使用を心掛けましょう。ストーブ



出火原因となったストーブを使用する際は次の点に注意してください。
①ストーブの上に洗濯物を干さない
②ストーブの近くに物を置かない
③点火したままのストーブには給油しない
④カートリッジタンクの

ふたはしっかり閉める
住宅用警報器の設置を
昨年、市内の火災で亡くなった人の約7割は「逃げ遅れ」が原因でした。いち早く火災発生を察知するには住宅用警報器が有効です。全ての住宅で警報器の設置は義務化されています。
逃げ遅れを防ぎ、大切な家族の命や財産を守るよう、警報器を寝室と階段に必ず設置しましょう。警報器設置については、回線へ問い合わせください。